

やさかだよい11 No.87

八坂地域づくり協議会

<https://www.shinshu-yasaka.com>

2021年（令和3年）11月1日



稲刈りを頑張る山村留学生（関連記事：7頁）

11月号の記事

地域づくり協議会の活動から	2～3
地区の活動から	4
たけのこ保育園	4
ふれあい運動会（小中学校）	5
中学校	5
コミュニティ・スクール	6～7
育てる会・公民館から	7
地区の活動から	8
きりり話題の八坂人	8



10月23日（土）に八坂秋まつりが開催されました。お楽しみ抽選会の1等賞は、野平の奥澤岳斗君でした。おめでとうございます。

（八坂秋まつりの詳細は、次号掲載します。）

八坂地区の人口：765人
（男381人・女384人）
八坂地区の世帯：354世帯
（令和3年10月1日現在）

地域づくり協議会の活動から

期 日	区 分	内 容 等
8/30	第 3 回八坂地域づくり協議会	補正予算について
9/15	第9回やさかだより編集会議	やさかだより 11 月号編集会議
9/16	第 4 回八坂地域づくり委員会 第 2 回自治振興会長会議	・大町市過疎地域持続的発展計画（素案）について【市企画財政課より説明】 ・災害時の指定避難所について
9/22	第 3 回八坂秋まつり実行委員会	・八坂秋まつりの開催内容について
9/28	・長野国道事務所信州新町出張所 要望活動 ・大町市長要望活動	正副会長、野平自治振興会長
10/15	・大町建設事務所要望活動 ・犀川砂防事務所要望活動	正副会長、諏訪県議同行
10/23	・八坂秋まつりの開催（八坂小学校グラウンド）	

八坂地域づくり協議会

陳 情 活 動



9月28日（火）に長野国道事務所信州新町出張所と大町市に対して、陳情活動を行いました。長野国道事務所には正副会長の他に野平自治振興会長も出席し、国道19号の改良等について要望しました。

また、10月15日（金）には大町建設事務所・犀川砂防事務所に対して、陳情活動を行いました。当日は諏訪県議にも同席をいただき、施設の改良や維持修繕箇所をまとめた要望書を手渡しました。



牛越大町市長に陳情書を手渡し、北澤会長



鳥羽長野国道事務所信州新町出張所長、塩野入大町建設事務所長、石坂犀川砂防事務所長に北澤会長から要望書を手渡しました。

アート制作ボランティアに参加

八坂地域づくり協議会では
9月26日(日)に北アルプス
国際芸術祭の作品、横瀬の農
地を舞台にした「心田を耕
す」(作家:ヨウ・ウェンフー
(台湾))の制作ボランティア
ア作業を行いました。

当日は朝から土砂降りで作
業するには厳しい天候ではあり
ましたが、1時間ほど作業を
行い、その後は残った方で、
準備した材料が終了するまで
行いました。



雨の中、屈んでの作業は大変だったと思います。お疲れまでした。

牛越大町市長も早朝より駆け
つけていただき、一絵会、や
さかボランティア隊の皆さん
も協力いただきました。
特に一絵会の皆さんは連日
のボランティア参加で協力的
にいただき頭の下がる思いです。
雨降りの中の竹ひごを植え付
けていく作業はかつての田植
えを思い出し、手で植えたこ
ろは大変な作業だったと懐か
しむ方もいらっしゃいました。
竹ひごを一本一本植えていく
作業は大変で、始まったころ
は会期前の完成は難しいので
はないかと思いましたが、八
坂中学校の生徒さんや、大勢
の皆さんの協力により開催前
に完了し、10月2日(日)の
初日を迎えることができました。



八坂中学校の皆さんも がんばりました!

八坂中学校では、横瀬の田
んぼで作品が制作されている
ことを聞き、全校で作品制作
ボランティアに協力しました。
1本ずつ竹ひごを植えていく
根気のいる作業でしたが、み
んなで合計2万本近くの竹ひ
ごを植えることができました。

北アルプス国際芸術祭は
11月21日(日)まで
開催しています。

ぜひご観覧ください。

問い合わせ:

北アルプス国際芸術祭実行委員会事務局
TEL: 85-0133



*横瀬地区の作品をご覧になるには、鑑賞パスポートまたは鑑賞券が
必要となります。横瀬地区の受付でも購入できます。

秋葉神社

秋の例大祭



断崖にある青い屋根の建物は拝殿です

9月19日(日)、小松尾集落と横瀬集落で秋の秋葉神社のお祭りが執り行われました。

これは、春と秋に毎年行われている祭事で、4月と9月の第3日曜日に決まっています。

秋葉様、秋葉神社と呼ばれる神社は全国各地に千カ所以上あるらしく、多くは、当地で行われているような、地域信仰のような祭事だそうです。

秋葉様は、火による災厄を除けるべく祈願するためお祀りされるお社です。周辺の集落を見晴らせる、眺望の良い断崖の上に祀られており、他所の方から「あの崖の上の建物は何?」と聞かれることもよくあります。

人口の減少とともに、地域の祭祀が簡略化されていっていますが、家内安全・災厄除けを願って地域の神様を信仰する気持ちは忘れずにいたいものです。

石原地区編集委員

松下憲夫

たけのこ保育園

がんばったよ！運動会

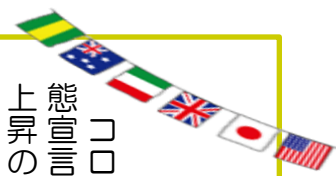
今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のためたけのこ保育園のみで運動会を行いました。年長さんの「はじまりのことば」から開始し、かけっこ、競走、リレー、ゆうぎとみなでとても頑張りました。お天気は少し曇り空でしたが、近くでお家の方がたくさん応援をしていたので、子どもたちからはとても嬉しそうな表情が見られたり、朝から意気込みが感じられ、いつも以上の力を発揮して頑張った子どもたちでした。

園庭いっぱいにはしゃいだり、力いっぱい走りました！ みんなの様子をご紹介します

☆ゆうぎ：アニメ鬼滅の刃「紅蓮華」の曲に合わせて、キラキラ棒を持って全集中でかっこよく、元気に踊りました！
☆リレー：3チームに分かれ、走る順番を決める作戦会議をしてからスタート！練習では勝って嬉しい、負けて悔しい気持ちを感じながらも「リレー楽しい！もっとやりたい！」と意欲的な姿が見られ、子どもたちの成長を感じることができました。バトンは一人ずつ持ち、バトンでタッチをして走り出しました。お友だちを応援し、抜いたり、抜かれたりと見ごたえのあるリレーになりました。最後はみんなチームごとにトラックをかつこよく走りました。



お友達やお家の方の声援で、練習以上の力を発揮できました！



第9回

八坂地区

ふれあい運動会

コロナ禍による緊急事態宣言と県の警戒レベル上昇の影響を受けて、地域の方々の種目は行わずにこの保育園の皆さんも不参加となってしまいました。さらに、山村留学生の保護者の皆様も来場を見合わせたという規模を縮小した運動会になってしまいました。しかし、小中一貫校を視野に入れて中学生の種目は行い、新たな面も見られた今年の運動会でした。

台風の影響で日曜日への順延開催となりましたが、秋晴れの爽やかな天候のもと、実行委員やPTAの皆さんのご協力により無事に運動会を実施することができました。おかげ様をもちまして子どもたちは不安な表情もなく、それぞれの競技種目や係活動に一生懸命取り組みることができました。改めまして、皆様に感謝申し上げます。それでは、それぞれの種目について振り返ります。



小学1年～3年：ソーラン節 2021
（低学年表現） 1年は可愛らしく、2年は堂々と、3年は手足の指先まで気持ちを込めてみんなで心を合わせて踊りました。



中学校全生徒：メドレーリレー
今年の運動会は、中学生も一緒に行いました。力強い走りは小学生の注目の的でした。



小学校全生徒：全校リレー
各チームごとに走る順番やバトン渡しの方法を考え合い、少しでも速くりレーができるように練習をしていました。当日も、仲間を信じてカー杯走る姿が見られました。



小学4年～6年：カイト（高学年表現）
オリンピック・パラリンピックの感動が蘇るフラッグ（旗）を使った躍動感溢れるダンス。指先にも気持ちを集中して表現する高学年児童の姿は、とても見応えがありました。

八坂中学校

やまびこ祭

Flowers ひらめきからきらめきへ

9月末には緊急事態宣言が解除され、山村留学生の保護者の皆様にも来校いただき第45回やまびこ祭が開催できました。今年も昨年に引き続き八坂の活性化を考える「しゃべり場」を実施しました。小学校5・6年生にも参加してもらい八坂で実施可能な自然体験活動を話し合い、交流先の武蔵野市立第五中学校とオンラインで意見交換をしました。東京の中学生は、川遊び、そば打ちとメープルシロップ作りに興味があることが分かりました。コロナ禍が終息し交流が活発になり八坂が活性化することを願っています。





小学校の活動

郷土ふれあい体験学習

10月2日(土)、秋晴れのもと「郷土ふれあい体験学習」がPTA、公民館、学校の三者共催によるコミュニティ・スクールの行事として開催しました。学校支援ボランティア、老人クラブ、八坂元氣会から講師として17名の方々にお願いいただきました。コロナ禍という事もあり、はじまりと終わりの会を小学校とアキツホールに分かれてオンラインで行いました。また終わりの会では、各ブースから子どもたちが代表して作品を見せながら感想を述べ、講師の方々からも講評をいただきました。

体験学習は「竹細工」と「灰焼きおやき」は小学校、「わら細工」はアキツホール今年からの新ブース「そば打ち、そば薄焼き」は体験館と4つのブースに分かれて行ないました。

昨年(約100名弱)を上回る約140名の参加者での地域交流の場は、この体験学習の目標としていた『参加者みんなの笑顔を見ること』ができ、たくさん笑顔と笑い声が八坂の地にいつまでも響き渡っていました。



灰焼きおやき中学生が7名(昨年3名)お手伝いに来てくれ、いろいろやドラム缶にて灰焼きおやきを作りました。久しぶりに八坂を訪れた山村留学生保護者の方々と話し楽しい時間を過ごしました。



竹細工弓矢、竹てっぽう、竹とんぼを作り、完成するの当てや竹とんぼ飛ばし等で盛り上がり、最後まで楽しんでいました。

時間を過ごしました。

竹とんぼ飛ばし等で盛り上がり、最後まで楽しんでいました。



そば打ち学校支援ボランティア講師の他に八坂元氣会から6名来てくださり、細かい所まで丁寧に教えてくださり、失敗したかな?と聞いていただくことを察しすぐにフォローしていただき、参加者の真剣な表情が印象的でした。



わら細工おやすや正月飾りを作り講師の方が優しく丁寧に声をかけ教えていただき、どちらかというと子どもたちの方が覚えが早く上手に作っていました(笑)個性豊かな売り物にしろてもよい程の出来映えでした。

みなさんの感想をご紹介します

小学生

○弓矢を作って、すごく飛んだのでうれしかったです!

○初めておやきを作り、楽しかったです!お母さんやお父さんも初めて作り、楽しんでいたので良かったです!

○初めてそば打ちに参加して上手に出来たので、またやりたいと思いました!

○わら細工は、難しい所を優しく教えてくれたので、ちゃんと作れて良かったです。講師の方、ありがとうございました。

保護者

○竹細工に参加し、子どもの真剣な表情を見て嬉しく思いました。気づくと私も真剣に楽しんでいました!

○おやき作りに参加し、久しぶりに子どもと一緒に料理しました(笑)いろいろが学校にあり、ドラム缶で灰焼きおやきを作るなんてすごいなと思いました!自宅でもおやき作りにチャレンジしていきたいです。

○わら細工は思ったより難しく、悩んでいた講師の方が優しく教えてくれて、出来上がった時にはとても嬉しかったです。

○そば打ちは、数回やった事がありましたが、うまくいかず、あ〜と思っていたら講師の方がフォロワーしてくださり、何とかそば(うどん?)が出来たので良かったです。

中学校の活動

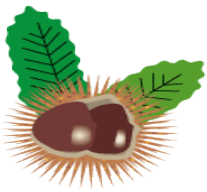
そば刈り

9月27日(月)に1年生でそばを刈り取りました。1学期の7月13日(火)に全校で種を蒔き、2ヶ月半経ち、たくさんのおそばの実が実りました。学校支援ボランティアコーディネーターの勝野健一さんに教えていただきながら、全てのそばを刈り取ることが出来ました。子どもたちの中には、稲刈りの経験があったようですが、そばを刈り取るのは初めてだったようで、良い経験になったようです。



自分たちで育てたそばを収穫し、そば打ちして食べる事は、八坂中学校の貴重な体験学習となっています。「稲刈りと似ていたけど、そば刈りは、根元が細くて大変でした……」「稲刈りよりも、根元が細く、刈りやすかったです!」と対照的な中学生の感想を述べていただきました。

おいしい新そばを心待ちにしている子どもたちと先生、そば打ちの報告を楽しみにしています!



山留の風

育てる会 TEL:26-2306 HP:www.sodateru.or.jp

稲刈り

9月20日(月) ☀

秋晴れのもと、稲刈りをしました。今回稲刈りをするのは、センターの田んぼと山留OB保護者と地域の方が管理している棚田の田んぼ2枚の合計3枚の田んぼです。

最初のミーティングでは、4月から作業の振り返りと「命をつなぐために命を刈り取る」という事や使う道具について等話を聞いて田んぼへ出発。まずは、鎌の使い方や注意事項を聞いて、11月に行われる収穫祭の感謝の

式で祭壇にお供えする稲を一人一株刈り取りました。その後は小学生と新入園生の中学生が稲を刈り、継続生の中学生が結束をするという役割分担をし、作業をすすめていきました。初めは「難しい」「うまく刈れない」と言っていた新入園生も、次第にコツをつかみ、スムーズに刈り取ることができるようになりました。結束は前日の夜に練習していましたが、午前中に2枚の田んぼを刈り終え、お昼休憩。外で昼食をとりエネ

ルギーをチャージして午後の作業に向かいます。

「もう少し」「そっちどう?」とお互いに声を掛けあいながら作業を進めていきました。夕方5時、無事全て稲架棒にかけ終わると、「やっと終わった」と大変な作業だったからこそ、達成感を味わった様子。刈り終えた田んぼとやまなみの景色を見ながら手づくりおはぎをおやつにいただきました。

自分たちの口に入るものを自分たちの手で作る大変さ、楽しさをかみしめることができた活動になりました。





八坂地区特産の竹で 竹文化の保存と伝承を！

いち え か い 一 絵 会

会員のみなさん

丸山晃孝さん・大日方宗仁さん・大日方隆さん・北澤豊繁さん・
北澤伸夫さん・仁科光晴さん・勝野健一さん・降旗剛さん

平成29年大町市に於いて北アルプス国際芸術祭が開催されました。東山エリア（八坂地区）には5つの作品が制作され、大勢の地域の皆さんの協力により開催されました。そのなかでも大平地区の「バンブーウエーブ」〔作家：ニコライ・ポリスキー（ロシア）〕は芸術祭全体の作品の中でも、最も人氣が高く、芸術祭を代表する作品となりました。また、八坂の竹は大きく美しいと絶賛されました。

芸術祭が終わり、いつもの生活に戻りましたが、絶賛いただいた竹で何かの形を作ろうと、志が同じ仲間が集まりました。会の名称を、一つの絵、一つのアート、という意味で「一絵会」と名付けました。

現在開催されている北アルプス国際芸術祭は、コロナ禍の影響で当初予定されていた八坂地区でのアート作品の内容や場所の変更、また作家ヨウ・ウェンフー氏の来日が困難ということでリモート指示により作品制作することとなりました。

開催を二週間後に控えた9月17日から制作開始し、台湾から送られてきた50万本の竹ひごを休耕田に刺す作業を連日行い、同月30日に作業は終わり、一絵会の会員も終始協力することができました。

現在開催している『北アルプス国際芸術祭 2020-2021』の作品、横瀬地区神出の『心田を耕す』の制作ボランティアに連日、朝から黙々と竹ひごを刺し、作品完成に力を尽くした「一絵会」のみなさんをご紹介します。



アートフロントギャラリーの方から感謝を込めて一絵会のみなさんに贈られました

今後は、八坂地区特産の竹を地域資源として捉え、竹かごや竹ざるの制作、竹とんぼや水鉄砲などのおもちゃづくり教室の開催など、昔から伝わる竹文化の保存と伝承活動を広げていきたいと思っています。

編集後記

やさかだより十一月号をお読みいただきありがとうございます。最近の編集会議では、「コロナで行事が中止になってしまっている」というやりとりが当たり前になってしまっています。そんな状況から少しづつでも脱却したいところですよ。

人々の暮らしは新型コロナウイルスの影響で変わってしまいましたが、自然の営みは相変わらずたくましく、そして美しい。そんなことを感じられるのが八坂での暮らしのよいところではないでしょうか。春に植えた稲は黄金色に染まり収穫を迎え、山の木々は生き物に秋の恵みを与え、葉を落としてゆく。もう少しすれば雪がすべてを覆うでしょう。そんな自然のたくましさを見習い、泰然自若とした生き方が出来ればと願う今日この頃です。

切久保地区編集委員

吉原克巳

